

Title	音楽教育に関する高大連携の取り組み : 保育者養成課程による出前授業の展開
Author(s)	三沢, 大樹; 鈴木, 麻里; 佐々木, 茂
Citation	学校教育学会誌, 18: 77-86
Issue Date	2013-03
URL	http://s-ir.sap.hokkyodai.ac.jp/dspace/handle/123456789/6925
Rights	

音楽教育に関する高大連携の取り組み —保育者養成課程による出前授業の展開—

The Cooperative Practice between a High School and a College in Music Education

三 沢 大 樹

Daiju MISAWA

鈴 木 麻 里 *

Mari SUZUKI*

佐々木 茂

Shigeru SASAKI

函館短期大学

Hakodate Junior College

函館大学付属柏稜高等学校 *

Hakuryo High School affiliated to Hakodate University*

音楽教育に関する高大連携の取り組み —保育者養成課程による出前授業の展開—

The Cooperative Practice between a High School and a College in Music Education

三 沢 大 樹
Daiju MISAWA

鈴 木 麻 里 *
Mari SUZUKI*

佐々木 茂
Shigeru SASAKI

函館短期大学

Hakodate Junior College

函館大学付属柏稜高等学校 *

Hakuryo High School affiliated to Hakodate University*

論 文 概 要

本論文は、短期大学の教員が系列高校の生徒に対して実施した出前授業の実践報告である。

日頃、短大教員である筆者が保育学科の学生に対して実施している3つの活動（手遊び・リズム遊び、音楽鑑賞、ピアノ・アンサンブル）を、高校生に対してほぼそのままの内容で授業実践したところ、どの活動においても理解度や意欲に関して前向きな自己評価をした生徒が多く、特にその傾向は「手遊び・リズム遊び」「ピアノ・アンサンブル」において強く示された。また、本事業に対する生徒の意欲は高く、高等教育機関である本学の授業内容を高校生が十分に理解できる可能性が示唆された。

キーワード： 高大連携，出前授業，保育音楽，音楽科教育，保育者養成

1. 諸言

函館短期大学保育学科では、平成22年度より系列校である函館大学付属柏稜高等学校（以下、系列高校）と音楽教育に関する連携事業の取り組みとして、年に数回の出前授業を実施している。3年目となる平成24年度には、短期大学の音楽教員（以下、短大教員）が1年生を対象に1回、2年生を対象に2回の授業を実践した。本論文は、このうち2年生に実施した2回の授業の報告である。

本事業を始めるきっかけは、系列高校側で新教育課程の実施にあたり音楽科目に関して見直しをしたことによる。旧教育課程では、第1学年で2単位（科目名「音楽Ⅰ」）、第2学年で1単位（同「音楽Ⅱ」）の音楽科目が設定されていたが、今回、第2学年の単位数が2単位に増やされたこと（同

「音楽総合」)、また新教育課程ではキャリア教育を重視する基本方針が掲げられ、学園内で連携事業を実施する環境が整備されたことなどの理由から、高校の音楽教師（以下、高校教師）に連携を打診されたことによる。短期大学側に対する本事業のメリットとしては、生徒が進路決定以前に本学教員の授業を体験することで、本学を進学先として優先的に選択してもらえる可能性が挙げられる。また、高校生に事前教育を行えることには教育上のメリットも考えられる。近年の新入生の傾向として、楽譜の知識やソルフェージュ力などの基礎的音楽能力に弱く、ピアノの演奏技術を中心とした保育の音楽学習に困難さを抱える学生が多い。実際の授業内容を体験することは、生徒が保育音楽をイメージ付けする機会となり、音楽学習に対する意欲を高めることが期待できると考える。

2. 実践概要

系列高校普通科の2年A組と2年B組の2クラスに対して、各2回の授業を行った。授業はそれぞれ1回完結型とし、継続性を持たせないこととした。授業内容は、本学保育学科で筆者が保育学科の学生に対して実施している3つの活動（手遊び・リズム遊び、音楽鑑賞、ピアノ連弾）を、概ね変更することなく指導した。なお、両クラスの授業展開が同一になるように試みたが、移動時間の都合で片方のクラスでは扱えなかった内容が一部分ある。

2.1. 第1回目

第1回目の授業は、平成24年6月に実施した。本事業の位置づけは「出前授業」であるが、短期大学の音楽教育設備が系列高校よりも充実していることから、生徒に短期大学まで移動してもらい授業を行うことにした。高等学校から短期大学までの移動時間は専用バスで片道15分程度かかるため、高等学校側の配慮により2時間連続の授業になった。実際に授業展開できたのはA組60分、B組50分程度である。題材名は「函館短大の授業体験（音楽編）」とし、本学保育学科の授業で行っている「手遊び・リズム遊び」と「音楽鑑賞」を教授内容に設定した。

- 1) 対象者：函館大学附属柏稜高等学校普通科 2年A組28名、2年B組27名
- 2) 実施日：平成24年6月18日（火）[A組]、同22日（金）[B組]
- 3) 場所：函館短期大学 第I音楽室
- 4) 題材名：「函館短大の授業体験（音楽編）」
- 5) 教材楽曲・主な活動：①「リズムのエコー」②「ごんべえさんのあかちゃん（手遊び／サイレント・シンギング）」③「ねこふんじゃった（拍子打ち）」（以上、手遊び・リズム遊び）④「ピアノ協奏曲第1番BWV1052」より第1楽章（J.S. バッハ作曲）（以上、音楽鑑賞）
- 6) 実践内容：

今回の授業計画では、前半の約20-30分で「手遊び・リズム遊び」の学習を行い、後半30分を「音楽鑑賞」の時間に充てた。各教材の詳細と教授内容を下記に示す。

「手遊び・リズム遊び」（①～③）は、短期大学では音楽表現系の授業（科目名：表現I、表現I指導法）の中で扱っている活動である。

①は、指導者の叩くリズムをまねて打つ活動で、身体打楽器の基本的な学習である。これは、現代ドイツを代表する作曲家、カール・オルフ (1895-1982) による音楽教育法「オルフ・シュールベルク」の導入で用いられる。井口 (2009) によると、「オルフ・シュールベルクでは即興表現が重視されるが、その導入段階では、まずごく易しいものの『模倣』をすることからはじめ、それらを組み合わせて小さな『即興』を無理なく引き出そうと考えられている。」とされている。今回の活動では、叩く場所を手拍子、膝打ち、足拍子、指ならしの4か所とし、4分の4拍子、音符は単純音符の中から2分音符・4分音符・8分音符に限定することで、模倣が困難にならないように配慮して行った。

②では、手遊びの動作を付けながら歌唱を行った。手遊びは手元の楽譜や歌詞カードを見ながら行うことは困難であるため、歌詞をスクリーン上に投影しながら活動を行った。また、生徒が慣れてきた段階で歌詞の一部を抜くように指示を出し、「サイレント・シンギング」の学習に発展させた。三村 (2011) によると、「サイレント・シンギングとは『声に出さずに心のなかで歌う』ことである。サイレント・シンギング=内的聴覚ではないが、サイレント・シンギングには内的聴覚が綿密に関わっているのである。コダーイ・ゾルターンのコンセプトに基づいた音楽教育でも、内的聴覚育成のためにサイレント・シンギングを行っている。」としている。内的聴覚は、頭や心の中で音楽を想像する黙唱に必要な能力である。この「字抜き」の学習では、抜いた歌詞の部分を頭の中でうたうことが重視される。

③は拍子感の育成を目的とした活動である。一般に広く知られている楽曲「ねこふんじゃった」の拍子が3・3・7拍子であることに着目し、ピアノの演奏に合わせて手拍子でリズム打ちを行った。短大教員が弾くピアノに合わせて拍子打ちを確認した後、「ねこふんじゃった」を弾くことができる生徒数名にピアノを弾いてもらい、彼らの演奏に合わせて全員で拍子打ちを行う活動に発展させた。【図1】

「音楽鑑賞」(④)は、保育表現技術・音楽系の授業(科目名:音楽I)で行っている。「音楽I」は1年次の開設科目であり、その主たる内容はピアノの演奏技術の習得であるが、本学保育学科の新入生はピアノに全く触れたことのない初学者の学生の割合が高いことから、導入の段階でピアノという楽器自体に興味を抱いてもらう必要があると考えている。それ故に、年間を通してピアノ協奏曲の鑑賞の授業を設定しており、学生がピアノへの興味や関心を高めることを期待している。今回の実践では、J.S. バッハ作曲「ピアノ協奏曲第1番」より第1楽章を教材に取りあげ、ピアノによる演奏とチェンバロによる演奏(抜粋)を比較して印象の違いを感じ取ることをねらいとした。CD音源での鑑賞の前後に解説を行い、途中で楽曲の一部をグレン・グールド(1932-1982)の演奏動画で再鑑賞し、彼の特徴的な演奏姿勢(椅子が非常に低い)を確認後、それを短大教員が真似をしながら楽曲の冒頭部分(第一主題)を演奏した。また、解説には黒板を使用せず全てプレゼンテーションソフトを使用した。

2.2. 第2回目

第2回目の授業は、同年11月に短大教員が高等学校に出向いて実施した。第1回目の授業から

今回までの間に、高等学校側に電子ピアノのML教室（Music Laboratory／電子ピアノによるピアノ学習システム）が設置されたことから、この設備を活用したピアノ指導を行うことにした。生徒たちは通常授業の中で既に数回のピアノ学習を経験していることから、「ピアノ・アンサンブル」を題材とした授業を計画した。

- 1) 対象者：函館大学付属柏稜高等学校普通科 2年A組25名、2年B組27名
- 2) 実施日：平成24年11月8日（木）
- 3) 場所：函館大学付属柏稜高等学校ML教室、音楽室
- 4) 題材名：「ピアノ・アンサンブルを楽しもう」
- 5) 教材楽曲：「茶色の小瓶」（グレン・ミラー 曲／筆者編曲）
- 6) 実践内容：

「ピアノ・アンサンブル」の授業を行ううえで最も配慮したものは教材楽曲である。短大教員と生徒たちとの接点は前回の授業（6月）1回のみで、生徒の能力や実態を十分に把握できていない。そもそも生徒一人ひとりの実態に合った既成楽譜を探すことは非常に困難である。そこで、今回は短大教員がピアノ初学者同士でも弾きこなすことが可能な難易度の楽譜を自ら作成した。【譜例】この楽譜は、個々の生徒の能力に合わせて、全16小節のところ前半の8小節でも演奏を終了させることが可能な編曲にしてある。また、両手演奏ができない生徒でも、第1奏者は右手、第2奏者は左手のみ演奏することでアンサンブルが可能のように配慮した。なお、当初は1台4手のピアノ連弾を想定していたが、高校教師との打ち合わせの中で、ピアノ演奏に慣れていない者同士の場合は一人1台の楽器を与えた方が練習や演奏に集中できること、打鍵が弱く生ピアノで演奏できる生徒が少ないという情報を得たことから、演奏形態を2台4手連弾に変更し、発表会では高校側で用意可能なキーボード（ハーモニー・ディレクター）を2台使用することにした。

当日の授業では、前半20分をML教室を使用した個別指導とペア同士で練習する時間に充て、後半30分にクラス内発表会を行った。前週の授業までに、高校教師から楽譜が配布され一部指導を受けていたこともあり、授業開始前から教室に入り自主練習を始めるなど、意欲的に練習する生徒の姿が多くみられた。前半の練習時間では、生徒たちがヘッドフォンを使用して各々に練習する中を、短大教員と高校教師が電子ピアノの間を巡回し指導にあたった。電子ピアノやヘッドフォンの操作に不慣れな生徒が多く、ML教室の使用方法的説明をしながら実技指導を行った。後半は、音楽室に移動してクラス内発表会を行った。【図2】発表会の開始に先立ち、マナー学習として、演奏者は演奏前後にお辞儀をすること、観客は演奏前後に盛大な拍手を送ること、という2つの約束事を決めた。当日欠席の生徒が複数名いたため、ペアの相手がいない生徒に関しては、短大教員や高校教師が代役となり一緒に演奏した。準備時間が短かったため、多くの生徒が両手で弾くことはできず片手の演奏であった。また、前半8小節までの演奏で終わるペアも多くみられた。演奏の途中で止まってしまうペアもあったが、投げ出すことなく全てのペアが自分たちの練習成果を披露することができた。



図 1 「ねこふんじやった」を弾く生徒



図 2 クラス内発表会の様子

茶色の小瓶 グレン・ミラー

Moderato

- 1 -

譜例 短大教員による編曲楽譜（「茶色の小瓶」ピアノ連弾版）

3. 自己評価アンケートについて

それぞれの授業の終わりに、生徒に対して授業内容に関するアンケート調査を行った。調査の目的は、今回の授業実践の内容である3つの活動（手遊び・リズム遊び、音楽鑑賞、ピアノ連弾）を生徒が理解できたのか否かを、自己評価を通して把握することである。第1回目（6月）のアンケートでは、授業内容の理解に関する自己評価を活動別（①手遊び・リズム遊び、②音楽鑑賞）に行い、第2回目（11月）のアンケートでは、ピアノ実技であることを考慮して、③-i 授業への参加意欲、③-ii 自己の演奏に対する自己評価、の2項目とした。評価尺度は全て5段階とし、項目ごとに感想欄を設けた。なお、感想欄の記述に関しては、明らかな誤字脱字以外は原文を修正せずに掲載した。

3.1. アンケートの概要

- 1) 調査方法：質問紙を用いた記名による自筆式アンケート調査
- 2) 対象者：授業に参加した生徒 55名（第1回目）、52名（第2回目）
- 3) 質問紙回収率：第1回目、第2回目ともに100%
- 4) 質問項目：①授業内容「手遊び・リズム遊び」の理解に対する自己評価②授業内容「音楽鑑賞」の理解に対する自己評価（第1回目）、③-i 「ピアノ・アンサンブル」の授業に対する参加意欲③-ii 自己の演奏に対する自己評価（第2回目）

3.2.1. アンケートの考察①（第1回目の授業）

第1回目の授業における生徒の自己評価アンケートの結果を【図3】に示した。この表から分かるように、①手遊び・リズム遊び、②音楽鑑賞の二つの活動では「とても理解できた」「ほぼ理解できた」とする回答が多く、両者とも「あまり理解できなかった」「全く理解できなかった」とする回答はみられなかった。また、「どちらとも言えない」とする回答に関しては、①は2名（3.6%）と少ないが、②は17名（30.9%）と3分の1近くの生徒が回答しており、無回答の生徒も2名（3.6%）みられた。

【表1】には、①の感想欄に見られた記述を抜粋して掲載した。なお、「どちらとも言えない」と回答した生徒2名の感想は両方とも掲載した（6, 7）。感想欄のコメントには、「分かり易い説明だった」「手遊びがとても楽しかった」などの肯定的な意見の他、「意外と難しかった」とする意見、「自分が幼稚園（保育園）の頃を思い出した」などの自分の幼児期を思い出したとする意見、「このような活動を子どもたちにやってあげることが分かった」「短大の授業について分かった」などの保育音楽や保育学科の授業について理解できたとする意見がみられた。一方で、「どちらとも言えない」と回答した生徒の感想からは、全ての活動を理解することは難しいものの、一部の活動に関しては理解できたことが伺える記述が確認された。

②の感想欄に関しては、「とても理解できた」「ほぼ理解できた」と回答した生徒の記述（抜粋）を【表2】に、「どちらとも言えない」と回答した生徒（17名）全員の記述を【表3】に示した。前者には、「ピアノとチェンバロの音色の違いが分かった」「チェンバロの演奏の方が激しく聞こえた」などの

ピアノ演奏とチェンバロ演奏から受けた印象の違いに関するもの、「グールドの弾き方はおもしろい」「手の動きがすごかった」などの動画鑑賞に関するもの、「バッハの曲はすごいと思った」などの作曲者に関するもの、「クラシック音楽はいいなと思った」「すごくリラックスできた」などのクラシック音楽全般に関する肯定的な意見、「少し難しかった」とする意見、「先生が弾いたので印象に残った」などの短大教員の模範演奏に関する感想などがみられた。一方、後者に最も多くみられる感想は「眠くなった」(4, 7, 9, 11, 12, 13, 15)であり、今回の鑑賞曲が約9分間とやや長めだったため、鑑賞に集中できず途中で飽きてしまった様子が伺えた。その一方で、一言で終わらせている感想や短文の感想は少なく、なかには「どちらとも言えない」と回答しているにもかかわらず、楽曲や映像資料の印象をよく捉えられている感想も見られた(6, 14, 15)。

以上のことから、第1回目の授業実践では、全体的に授業内容を理解できたと感じている生徒が多いものの、「音楽鑑賞」に関しては理解の及ばなかった生徒もいたことが分かった。また、感想欄のコメントは全体によく記述できており、自己評価を「どちらとも言えない」としている生徒に関して的確な記述が確認されたことから、必ずしも学習の理解と自己評価は一致しないものと推測できる。

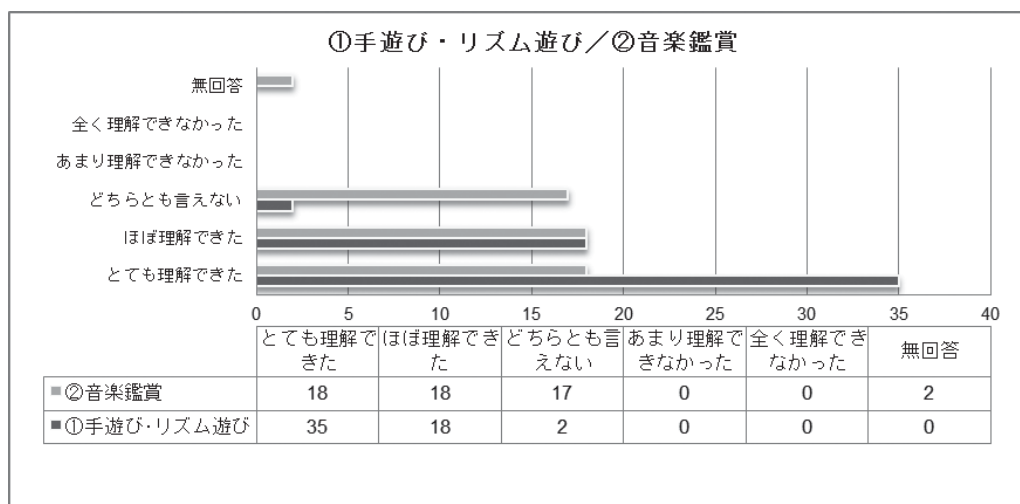


図 3 第1回目の授業における生徒の自己評価

表 1 「手遊び・リズム遊び」の感想(抜粋)

No.	感想(①手遊び・リズム遊び)
1	高校生の自分が難しいと感じたリズム遊びに私より小さい子どもにとったら、すごく難しくして時間もすごくかかるんだと思いました。だからこそ楽しくみんなでわいわいできるようなリズム遊びに子供たちは惹かれるんだと感じたし、私の小さい頃も思い出せたので、すごくなつかしくなりました。(とても理解できた、女子生徒)
2	3.3.7拍子のやつが「ねこふんじやった」と合うんだなって思ってすごいと思いました。リズム遊びは楽しかったし、こういうのを赤ちゃんとか、子供にやってあげるんだなって、思いました。(とても理解できた、女子生徒)
3	とても短大の授業についてわかった。手遊びもなつかしみがあつた。子どもがリズムを取るの難しいんだなあと思いました。保育の方へ進む人にとってはとてもいい時間だったと思いました。(とても理解できた、男子生徒)
4	指、手、太もも、足を使って体で表現してみて、結構おもしろかったです。でも、ねこふんじやったを弾く際に緊張しすぎて頭から記憶が飛んでしまって、最初から間違えてしまったが、とても勉強になりました。(とても理解できた、男子生徒)

5	保育園の時に戻ったみたいで楽しかったです。簡単そうに見えて意外と難しかったです。(ほぼ理解できた、女子生徒)
6	手でジェスチャーみたいにやったのは、うけた。ちょっと難しかった。赤い文字を言わなかったのは、簡単だった。(どちらとも言えない、女子生徒)
7	手を使ったりするのが楽しかった。(どちらとも言えない、女子生徒)

表 2 「音楽鑑賞」の感想① (抜粋)

No.	感想 (②音楽鑑賞「とても理解できた」「ほぼ理解できた」群)
1	バッハやグールドなどについて音楽鑑賞したけど、ピアノとチェンバロの音がこんなにも違うなんて初めて知ったし、ピアノで聴いたときは優しくて、強弱がすごくわかりやすかったけど、チェンバロでは、ピアノより、はげしかったり、音が強いイメージを受けました。(とても理解できた、女子生徒)
2	クラシックにはあまり関心が無かったけど興味が持てました。(とても理解できた、男子生徒)
3	曲のイメージは音が低くなったり高くなったり、速くなったりおそくなったりとこわいイメージだと思う。指使いがすごかった。ミスとかないのはやっぱりプロだなと思った。(とても理解できた、男子生徒)
4	クラシックを聴いてすごくリラックスできた。クラシックについてはよくわからないけど、すごく美しい曲かったです。先生がひいていてかんだうしました。(ほぼ理解できた、女子生徒)
5	最初からすごく音が耳に残ってきて、すごいなあと思いました。300年も前の曲なのに現代の自分たちにも聞きやすい音楽があるんだなと思いました。グレン・グールドの弾き方があんなに低い姿勢で弾けるんだと思い、すごかった。(ほぼ理解できた、男子生徒)

表 3 「音楽鑑賞」の感想②

No.	感想 (②音楽鑑賞「どちらとも言えない」群)
1	クラシックはあんまり頭に残らなくて良くわからなかった。でも、明るめのところと暗い部分があったかなーと思う。(女子生徒)
2	けっこう暗い曲だった。(男子生徒)
3	9分って長くてすごいと思った。動画の指はやばかった。スラスラ、ひけて、かっこよかった。(女子生徒)
4	とても聞いてて眠くなった。キレイな音色だったし、バッハは本当にすごかったってのがわかった。曲をひく人もすごいと思いました。(男子生徒)
5	自分達が普段聴いている曲よりかなり長かった。(男子生徒)
6	ねむくはならなかった！強弱はげしくて、こわくなったり、かなしくなったり、つよくなったりたのしくなったりかっこいい曲だと思いました。チェンバロ？の音ほそいなって思った。(女子生徒)
7	すごくきれいな音で眠たくなってしまいました。(女子生徒)
8	映像をみてもあんまり分らなかつた！！クラシックはむずかしい。(女子生徒)
9	ねむくなった。すごく長いなあと思った。手の動きがすごく速かった。(女子生徒)
10	バッハというのを日本語にしたら小川だと聞いたのはびっくりした。手の動きが速かった。(男子生徒)
11	初めてきた曲だった。少しねむくなった。指の動きが気持ちわるい。(男子生徒)
12	曲がながくてあきた。眠くなった。(男子生徒)
13	ねむくなった。(女子生徒)
14	バッハは世の中に何人もいたんだと思った。クラシックをフルで聞いたことがなかったから楽しかった。音だけと映像付きでは印象がちがった。チェンバロも印象がちがった。(男子生徒)
15	すごく眠くなりました。私はクラシック大好きなので聞いてよかったです。2回目に見た方は手の動きがすごかったです。色々なやつをもっと聞いてみたいです。(女子生徒)
16	バッハって良くわからない。けど、音楽はすごいと思う。(女子生徒)
17	やっぱり鑑賞とか楽器とか人の名前をいわれてもよくわかんなかったです。だけど、聞くだけと実際見ながら聞くのとは聞こえ方が全然ちがったからおもしろかったです。(女子生徒)

3.2.2. アンケートの考察② (第 2 回目の授業)

第 2 回目の授業における生徒の自己評価アンケートの結果を【図 4】、【図 5】に示した。③ - i 授業への参加意欲に関しては、受講した生徒全員が「とても意欲的に参加できた」または「意欲的に参加できた」と回答している。このことからピアノ・アンサンブルの授業に参加した生徒全員がある程度の意欲をもって授業に参加できたことが分かった。一方、③ - ii 自己の演奏に関しては、「ほぼ演奏することができた」と回答した生徒が最も多く、「上手に演奏できた」とする生徒と合わせると全体の 88.5%の生徒が自己の演奏を肯定的に捉えていることが分かった。しかし、「どちらと

も言えない」「あまり上手に演奏することができなかった」と回答した者も全体の一分以上(11.5%)に見られた。

【表4】には、感想欄の記述(抜粋)を掲載した。③-iにおける「どちらとも言えない」「あまり上手に演奏できなかった」と回答した生徒6名の感想に関しては全て掲載した(5-10)。感想欄には、「みんなが意欲的に取り組んでいた」「また機会があったらやりたい」などの肯定的な意見、「途中で間違えてしまった」「完璧に演奏はできなかったが自分なりに全力を出せた」などの自己の演奏に対する評価、「みんなの前で演奏すると緊張した」「二人で合わせて弾くのは難しかった」などの演奏の難しさに関する意見、「良い発表会だった」などの今回の発表会に対する肯定的な意見などが見られた。なお、③-iiで「どちらとも言えない」「あまり上手に演奏できなかった」と回答した生徒の感想欄には、「緊張した」との記述が多くみられる一方で、「楽しかった」とする意見がほぼ全員の記述に確認された。

以上のことから、第2回目の授業実践では、生徒たちはある程度意欲的に取り組むことができたと感じていること、発表会の演奏では緊張しつつも楽しみながら参加した生徒が多いものと推測できる。

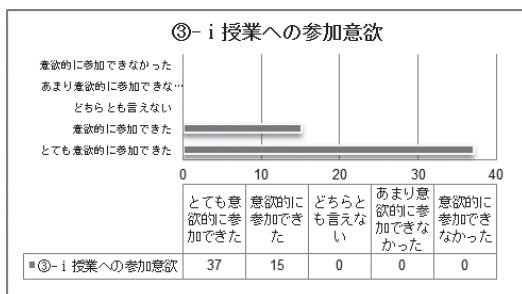


図4 参加意欲に関する自己評価

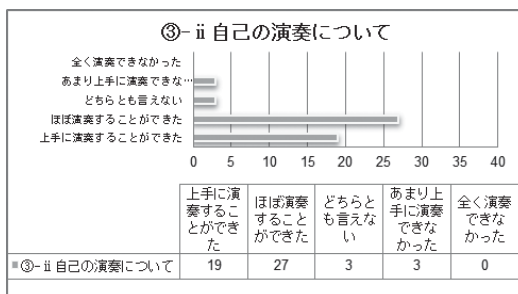


図5 発表会の演奏に対する自己評価

表4 「ピアノ・アンサンブル」の感想(抜粋)

No.	感想(③ピアノ・アンサンブル)
1	ピアノは本当に弾いたことがない初心者だけど、一つ一つ練習することのできるようになりました。自分の将来のためにもピアノはこれから大事になってくるので、もっと頑張っていきたいです。発表会もみんなで楽しく、きんちょう感のあるいい発表会だと思いました。次もこういう機会があれば、またやりたいです。(上手に演奏することができた、女子生徒)
2	とても楽しくできました。最初は失敗したが2回目に成功させることができてよかった。ピアノは難しかった。みんなも意欲的に授業に参加できて、良かったと思う。(上手に演奏することができた、男子生徒)
3	最初は絶対、自分にはできないと思っていたけれど、練習していくうちにできるようになって嬉しかったし楽しかったです。もっと色々な曲をやってみたいと思いました。(上手に演奏することができた、女子生徒)
4	ピアノの連弾の発表会は初めてだったのですが、自分は緊張せずしっかりと最後まで弾くことができて良かったです。でもペアの人が間違えてしまった所は、まだサポートが足りなかったり、一緒に練習をもう少ししておけば良かったのかなと思いました。また機会があればピアノの発表会をしたいです。今日はありがとうございました。(ほぼ演奏することができた、男子生徒)
5	今回のピアノ連弾は、2人で協力してピアノを演奏することが意外と難しくてこずっていましたが、練習をかさねるうちに、うまく演奏できるようになった。最後の本番はうまくいかなくて、悔しかったが真剣にとりくめたと、楽しかった。(どちらとも言えない、男子生徒)
6	ピアノを弾く機会はあるまりないので、いいけいけんができました。みんなの前で発表するのはきんちょうしたけど楽しくできました。(どちらとも言えない、女子生徒)

7	今日は全員の前の演奏ということもあり、とてもきんちょうしました。指をまちがえたりもしましたが、なんとかひけました。(どちらとも言えない, 男子生徒)
8	パートナーがいなかったので1人で弾いたけど、連弾をやりたいかった。でも1人でもできたからよかった。最後のところは緊張していつもできてたところができなくてミスをしてしまったから後悔してます。ピアノは好きなので楽しくできた。(あまり上手に演奏できなかった, 女子生徒)
9	初めてれんだんというのをやりました。さいしょはかんたんだと思っていたけどやってみたらなかなかむずかしかったけど、たのしかったのでまたやってみたいです。(あまり上手に演奏できなかった, 男子生徒)
10	ちょっときんちょうしたけど、まっまあできたかと思った。ピアノの授業はおもしろいので、連弾をちよくちよくいれてやってみたい。(あまり上手に演奏できなかった, 女子生徒)

4. まとめ

今回、本学保育学科の学生に対して実施している3つの活動(手遊び・リズム遊び, 音楽鑑賞, ピアノ・アンサンブル)を系列高校の2年生に授業実践したところ、全ての活動において多くの生徒が理解度や意欲に関して前向きな自己評価をしており、それは特に「手遊び・リズム遊び」「ピアノ・アンサンブル」の活動に強く示された。このことから、高等教育機関である本学の授業内容を高校生が十分に理解できる可能性が示唆された。また、感想欄には生徒の意欲が感じられる記述が多く確認された。一方で「音楽鑑賞」に関しては、生徒を飽きさせない工夫や授業の在り方を再考する必要があるだろう。

以上、本学と系列高校との高大連携事業の実践を紹介してきた。保育者養成課程における高大連携の研究は宮内ら(2009)などに前例を見ることができ、彼らの実践はキャリアサポートを目的としたもので、教科間の連携に関する研究はまだ見る機会が少ない。本事業は、次年度以降も継続予定である。今後は、生徒たちの「理解力」や「意識」の変化を研究課題として取りあげたい。

引用・参考文献

- 三村真弓, 他 2011 音楽リテラシー育成のための基礎的研究(3). 広島大学学部・付属学校共同研究紀要, 39, p147
- 宮内洋, 他 2009 保育者養成校ができる高校生へのキャリアサポート—高大連携事業イベントでの取り組みから考える—. 高崎健康福祉大学紀要, 9, pp105-113
- 井口太, 他 2009 新編幼児の音楽教育. 音楽教育研究協会
- 森本琢郎, 池田恭子 1985 うたうソルフェージュ 1. ドレミ楽譜出版社